

村長 宮脇 一

6月に入り、ファミリー懇談会で「今後の村づくり」について、次のようなことを話してきました。全部で14ファミリーあるのですが、先日、やっと第一回目が終了しました。年4回実施して、今後の福祉村について、みんなと考えたいと思っています。村を離れた皆さんにも、是非、ご意見を頂ければと思い掲載しました。そして、今後も、随時掲載したいと思っています。

あと暫く、この環境は続くものと思います。お身体を大切にお過ごしください。

【各ファミリー懇談会での話の要旨】

皆さんは30年、40年という長い間ここで生活してきました。どうでしたか？中には、「地域自立したかった」という人もいるでしょう。「周りから言われて渋々来たよ」とか「自分から積極的に来たよ」等々、みんな、色んなことがあって、村に来たと思います。僕も、22歳で勤めて、今63歳です。40年、ここに居ました。勤めて直ぐに、世間では「地域生活」が言われ出し、同業の人たちから施設を否定されて悩んだ時期もありました。でも40年ここでみんなと生きてきたんです。仕事と言うより、むしろ僕の人生という気がしています。なので若い時の悩みは何だったんだろうと、今は笑って言えます。どこに住んでも、誰と住んでも、そこには生きているということだけで、価値があるものと思うんです。生きるだけでも大変な時代です。僕もみんなも、ここで生きてきた40年は、とても価値あることなのではないでしょうかね。施設生活は集団生活です。窮屈かも知れませんが、でも、友だちと喧嘩したり、喜び合ったり、職員との関係で悩んだり、行事を楽しんだり、色んな経験をしてきたと思います。そして、40年です。その歴史は、とても貴重なものだと思うんです。そのことを是非、もう一度かみしめてほしい。そして、「これからどうしようか」と考えてほしいのです。決して、これまでを後悔してほしくないと思っていますよ。(そう話した時、多くの皆さんの顔が、首を横に振ったり「後悔してないよ」と表現していました。)

僕も含めて、高齢になると、病気になったり身体が動かなくなったり、良くないことばかり起こるでしょう。日に日に、気持ちが萎えていくもんです。だから、皆さんには、これまでの自分の人生を振り返って、「生きてきたんだ。」と再確認してほしい。その自信をもって、今後に向かってほしい。胸を張って、これからを生きてもらいたいのです。そして、大事なことは、「自分は一人ではないんだ」ということです。僕も含めて、周りには福祉村のみんながいます。一人ではありませんよ。

だから、これからの福祉村の施設整備は、建物を作って「ここに入ってください」という事はしたくない。皆さんが、これまで生きてきた人生を基にこれからどう生きていきたいかということが、盛り込まれた施設整備でなければならないと思っています。一人ひとりが考えてみてください。施設整備でありながら、個別の支援と思っています。これから年4回懇談会をします。少しずつ、今後のことを考えていきましょうよ。みんなで、考えていくんです。

ただ、そこには、大前提があって、「生涯安心した生活」という福祉村の使命です。この使命は保証します。その上に立って、皆さん一人ひとりが自分の生き方を考えていくんです。その一人一人のみんなの思いが、井馬初代村長が言っていた「村づくり」であり、私たちの施設整備と思っています。